

第 11 回関西地区例会開催報告

去る 2019 年 2 月 24 日（日）、大阪 eco 動物海洋専門学校にて 11 回目となる「日本動物看護学会 関西地区例会」が行われた。

前日の夕方から実行委員による会場の設営が行われ、当日の朝は当日のみお手伝いを下さる動物看護師の皆様にご役割の説明を行うなど、簡単なミーティングを行い、それぞれの役割についた。さして大きなトラブルもなく開会できたことは、運営委員の事前準備、連携ももちろん、会場を快くお貸しくださった大阪 eco 動物海洋専門学校様のスタッフの皆様のご助力によるところが大きい。改めて、会場側との密な打ち合わせをはじめとしたコミュニケーションの重要性を感じた。

当日のプログラムは以下のとおりである。

- 9:40 開場
- 10:10 開会の挨拶
シンポジウム
「人生 100 年時代！生涯あなたらしく輝く動物看護師でいるには」
◇パネリスト
森 教子(カニエ動物クリニック)
- 10:15~12:15 中村 昌子(マナ動物病院)
玉岡 彩乃(ファーブル動物医療センター/大阪ペピイ動物看護専門学校非常勤講師)
山本 寿実(ちだペットクリニック)
◇ファシリテーター
阿部 令子(アニマルサポートオフィス・ミーチョ代表/日本動物看護学会 常務理事)
- 12:15~12:40 休憩
ランチョンセミナー
「日常に多い皮膚疾患と消化器疾患における栄養学的アプローチについて」
◇講師
- 12:40~13:40 岡本 徹先生(ブルーバッファロー・ジャパン株式会社)
◇司会
立花 梓(奈良動物二次診療クリニック)
- 13:40~14:00 休憩
- 14:00~15:30 教育講演
「獣医師からのエール！私たちのケアを活かす動物看護学」
◇講師
小野沢 栄里先生、石岡 克己先生(日本獣医生命科学大学 獣医保健看護学科)
◇ファシリテーター
崎山 法子(王寺動物病院 取締役看護師長)
- 15:40 閉会の挨拶

<開会>

本学会副理事長の石岡先生より開会のご挨拶を頂いた。

例年、欠かさずご参加くださる石岡先生ならではの心温まるお言葉であった。

<シンポジウム「人生 100 年時代！生涯あなたらしく輝く動物看護師でいるためには」>

最初にファシリテーターの阿部令子理事よりシンポジウムの目的と注目点についてお話があり、次いでそれぞれのパネリストからお話を頂いた。

森氏は、「傾聴を活用した看護を考える」と題して、「傾聴とは？」といった基本的なことから、傾聴に出会ったきっかけ、また、自分の心にも傾聴することの大切さをお話くださった。会場では、特に飼主さんとサロンで傾聴を行っているときの様子に関して興味をひかれた方が多く見受けられた。

中村氏は「パピーケアを通して動物看護師ができること」と題して、動物看護師として仕事を続ける上での自分の強みは何か？を考えた結果、「パピーケア」にたどり着いたこと、ご自身が認定を受けておられる「JAHA こいぬこねこ教育アドバイザー」に関するを中心にお話しいただいた。何かを始めるのは大変なことだが、生産性の高い動物看護師を目指すために、常に勉強を続けることが大切であるとの内容には会場におられた多くの方が頷いて聞いておられたのが印象的だった。

玉岡氏は、「動物看護師におけるリハビリテーション業務との関わりについて」と題して、リハビリテーションの定義やリハビリテーションでの動物看護師の役割、どのようにして専門的な知識や経験を培ったか？についてお話しいただいた。会場内でも海外で専門的に勉強してきた内容や院内での玉岡氏の役割について「動物看護師であっても獣医師と肩を並べて活躍できるんだ！」といった刺激を感じ、自分の職務を考えるきっかけにもなったのではないだろうか。

山本氏は「トリマーから動物看護師へ 減量指導マスターへの道」と題して、今、自分が「減量指導マスター」として輝くまでの苦悩の日々やその中でのモチベーションの保ち方などを中心にお話しいただいた。会場でも自分がやりたいと思っている分野をなかなか行うことができず、もやもやしている方には「周囲の人を巻き込んで進めよう！」との山本氏の言葉は打開策となったことと思う。

その後、ファシリテーターからパネリストに講演内容などについて様々なインタビューがあった。どの内容も会場と一体となり、盛り上がりを見せたが、その中でも特に女性ならではの悩みである「ワークライフバランス」については、パネリストからの赤裸々な内容もあり、大きく盛り上がった。「結婚しても一般的な専業主婦像に縛られない」「無理をせず、時には手抜きも大切」などの言葉は、同じような立場にある方に力を与え、未婚の方々には結婚した時の自分の姿を想像する良い機会になったのではないかと考える。

<ランチョンセミナー>

ブルーバッファロー・ジャパン株式会社様に「日常に多い皮膚疾患と消化器疾患における栄養学的アプローチについて」と題してお話しいただいた。

会場からは「図や道具を使っての説明も多く、とても分かりやすかった」「聞きやすい口調だった」「皮膚疾患を持つ子の約 15%は消化器疾患にも苦しんでいることを初めて聞いた」「食事によって病気の改善がなされるなど、食餌の大切さが改めて分かった」「この製品を使ってみたい、勧めてみたいと思った」などの感想が寄せられた。

お弁当の配布は午前中と同じ会場であったため、大きな混乱もなく配布でき、配布漏れも把握しやすかった。ただ、ずっと会場が同じであったので、お弁当の匂いがこもりやすく、一度換気する必要があった。

<教育講演「獣医師からのエール！ 私たちのケアを活かす動物看護学」>

ファシリテーターである崎山法子氏が、講演続きで疲れてきているであろう会場の方々に、簡単なストレッチで気分転換を促し、午後の講演が始まった。

小野沢先生からは、動物看護師にとってなぜ研究が必要なのか、その研究がいかに大事であるか、動物看護師が看護研究を行う意義について、ご自身の経験などからも動物看護師という立場と目線で熱く講演され、改めて動物看護師も看護研究を積極的に行い、自身の仕事の確立と行っているケアの正当性をエビデンスに変えていくことが重要であると講演頂いた。研究を行うにはそれなりの労力と手順が必要であり、難しいというハードルを自分で設定しがちだが、日々の動物看護がすべて研究対象になっていくという着眼点から、少しずつでも、今からすぐ始められるという新たな刺激になったのではないかと感じられた。

石岡先生からは、最も研究で苦勞するであろう部分の、データの取り方や、その方法と特徴について教えて頂いた。その研究がどのような成果を得られたのかを検証する方法が必要であり、感じるだけでなく数字や確率から得られたデータを使って我々の動物看護をエビデンスに変えていくことを学べた。

動物看護研究や学会発表を行うにあたって、まさにソフト面、ハード面を埋めるにふさわしい、日本動物看護学会本来の役割を活かした講演を企画できたと感じられ、今後もこのような継続した講演が必要であると強く感じたのではないかと考える。

<休憩中>

会場後方には飲み物やお菓子が準備してあり、休憩中には参加者の皆様が利用されていた。当日は会場の室温が少し高めだったためか、冷たい飲み物が先に無くなってしまった。冬とはいえ、会場内は暖かいため、冷たい飲み物の準備を多くする必要があるかもしれない。また、今回は飲み物がこぼれた時にふき取るためのティッシュなどを準備できていなかったもので、次回からは準備が必要だと思われる。

同じく会場後方には『当院の工夫発表会♪』と題してそれぞれの動物病院で行われている工夫に関してポスター掲示があり、今回は8病院の工夫を掲示した。参加者の皆様が休憩時間にはお菓子やジュースを片手にポスターの前に集まり、熱心に見入ったり、お互いで工夫を話し合ったりしている姿が印象的であった。

【発表内容(順不同)】

- ・当院の『病院ギライ犬ゼロ計画』のあゆみ 古家真緒（まつおか動物病院）
- ・入院管理での工夫の一例 津田夏穂、中川茉優（ファーブル動物医療センター）
- ・子供に配慮した待合空間の提供 加藤 麻友香（花えみ動物病院）
- ・当院の待合室の工夫 西澤美幸、山本真由（よこた動物診療室）
- ・『待合室から始める優しい雰囲気作り』 小原洋子（ひょうたん山動物医療センター）
- ・より良い病院づくりの為に… 岩村由香（こおりやま動物病院）
- ・店舗併設型動物病院における待合室の工夫 永田稚花（こころペットクリニック）
- ・飼い主さんと動物に優しい病院を目指して！
～みんなで取り組むハッピーライフ大作戦～ 井上嗣美（アニウェル動物病院）

<閉会>

本学会理事長の桜井富士郎先生よりご挨拶を頂いた。

その中で、動物看護師の国家資格化への最新情報として、会場におられた、一般社団法人日本動物看護職協会副会長中村陽子氏より、「2月20日に超党派『愛がん動物を対象とした動物看護師の国家資格化を目指す議員連盟』の設立総会が衆議院第二議員会館にて開催された」旨の報告を頂いた。

<まとめ>

今回の関西地区例会はあくまでも2020年の開催初の大会に向けての布石であったため、例年よりも小規模な例会であったが、スタッフ間の連携の不手際もあり、反省点の多い例会となった。

最大の反省点として、当初予定していた講演の準備段階でスタッフ間の連絡が上手くいかず、結局、最初に依頼していた先生にはお断りすることになってしまった上に、急遽、石岡先生・小野沢先生にご迷惑をおかけすることになってしまった。

今後、このようなことが起こらないようにスタッフ間の連絡を密に行っていくことを次期運営委員に引継ぎ、自主性を大切にしながらも、より良い例会になっていくよう期待する。

最後に学会事務局および関係各所には大変お世話になり、感謝申し上げます。

関西地区第11回例会
副運営委員長 有富 春菜